

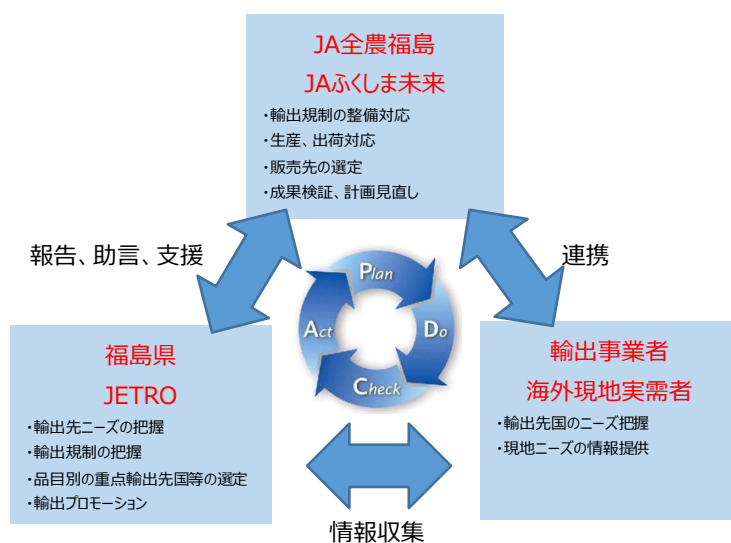
## 1. 輸出における現状と課題

- ①東日本大震災原発事故以降、主力輸出国であった香港、台湾の輸入停止措置。
- ②タイを中心とした輸入規制の強化。  
⇒残留農薬分析、選果梱包施設の衛生証明の取得などの輸入規制対応に多額の費用が発生。
- ③りんごについては、他産地の作柄や出荷動向により、本県産への受注量に変動。  
⇒年により安定した輸出が継続できない。
- ④あんぽ柿はもも、りんごほどの認知度が無く、生果実とは消費ニーズが異なる。輸出実績の積み上げが必要。  
⇒販売促進。生果実とは異なり長期間の輸送、保管、販売への対応が必要。

## 2. 輸出事業計画の取組内容

- ①輸出再開のために、輸出する可能性のある品目の放射性物質検査を継続し、輸出拡大を目指す。
- ②日本の残留農薬基準値に基づいた防除等とともに、国の事業等を活用し、輸出規制に対応するための残留農薬分析の実施や施設の登録、衛生証明取得など、各国の規制に応じた対応を整備する。
- ③計画出荷に向けた事前発注等の体制を確立し、輸出数量を確保する。
- ④冷凍、輸送の体制確立や賞味期限の延長。日本らしい食材としての魅力発信を通じた販売を促進する。

## 3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



## 4. 輸出目標額

|             | もも                   |                                            | りんご           |                                            | あんぽ柿            |                                       |
|-------------|----------------------|--------------------------------------------|---------------|--------------------------------------------|-----------------|---------------------------------------|
|             | 現状<br>(令和2年度)        | 目標年<br>(令和8年度)                             | 現状<br>(令和2年度) | 目標年<br>(令和8年度)                             | 現状<br>(令和4年度)   | 目標年<br>(令和8年度)                        |
| 輸出額<br>(千円) | 11,947               | 48,000                                     | 739           | 7,200                                      | 392             | 5,000                                 |
| 輸出量<br>(t)  | 18.4                 | 60                                         | 2.5           | 24                                         | 0.2             | 2.5                                   |
| 輸出先国        | タイ、シンガポール、<br>インドネシア | タイ、シンガポール、イン<br>ドネシア、マレーシア、<br>UAE（ドバイ）、台湾 | タイ            | タイ、シンガポール、イン<br>ドネシア、マレーシア、<br>UAE（ドバイ）、台湾 | タイ、UAE（ドバ<br>イ） | タイ、UAE（ドバイ）、<br>シンガポール、アメリカ<br>合衆国、台湾 |